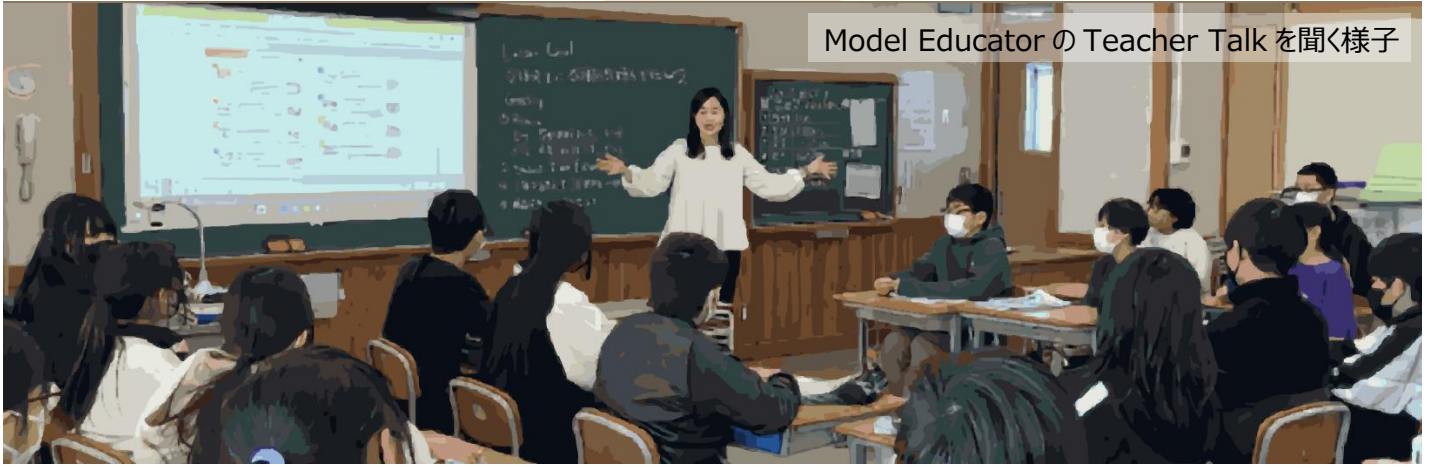


Model Educator の Teacher Talk を聞く様子



令和6年度小学校外国語外部人材活用事業

～授業に生かす地域の英語力～

In 2024, the Nagano Prefectural Board of Education placed a Japanese external personnel (Model Educator, ME) in one elementary school to enhance foreign language classes. This project aimed to improve students' communication skills in English and enhance the teaching abilities of homeroom teachers. The placement of the ME was entrusted to AtoZ Corporation.

With the placement, students became more motivated to learn English and improved their skills. Homeroom teachers also gained confidence in teaching English, leading to an improvement in the quality of lessons. This report summarizes the project's overview, achievements, challenges, and future proposals.

令和6年度、長野県教育委員会は、外国語の授業を充実させるため、小学校1校に日本人外部人材（Model Educator, ME）を配置しました。この事業は、児童の英語によるコミュニケーション能力の向上と学級担任の授業力向上を目的としました。MEの配置は株式会社エー・トウ・ゼットに委託しました。

MEの配置により、児童の英語学習への意欲が高まり、コミュニケーション能力が向上しました。また、学級担任も英語指導に自信をもつようになり、授業の質が向上しました。本報告書では、事業の概要、実績、課題、今後の提案についてまとめています。

事業の概要

【事業の目的】

外国語科は、言語活動を通してコミュニケーション能力の育成を図ることを目指しているが、小学校学級担任の中には自身の英語使用や授業の進め方、英語でのコミュニケーションの取り方等に課題を感じている者がいる現状がある。

外国語科の授業を充実させるために英語を用いたコミュニケーションに長けた日本人外部人材（Model Educator）を活用する事例を創出し、児童の力をより一層伸ばすとともに、学級担任の授業力等の向上を目指す。また、本事業における成果を含めた外部人材活用の在り方について研究を行う。



【MEの配置について】

(1)配置期間

令和6年7月から令和7年2月 週1回

(2)業務内容

- ① 1日当たり、授業（2クラス各45分）及び打合せを含めて3.5時間程度
- ② 外国語科の授業における英語指導
 - ・英語によるやり取り、スピーチのモデル提示
 - ・児童への学習指導の実施

- ③ 学級担任と単元構想案、授業案、チーム・ティーチングプランの検討を行い、打合せにおいて、検討や教材教具の準備を行う

- ④ 学級担任とのチーム・ティーチングによるモデル授業を期間中1回実施

(3)総事業費：569,800円

- (4)外部人材配置 委託業者
株式会社エー・トウ・ゼット



児童・学級担任の様子と ME の取組

【6月の児童・学級担任の様子】

- ・英語が好きな児童が多く、聞き取ったことにすぐに反応し声に出す等前向きな様子。

もっと英語でできることが
増えるといいな

児童



- ・ALT の先生とのコミュニケーションは貴重な機会だと考えてはいるが、英語の知識が少ないことによって、子供たちからの質問にうまく答えることができないと不安を抱えていた学級担任。

ALT は日本語を使わないから、
英語によるコミュニケーションは、
自分自身が不安だな・・・

学級担任



【ME の活動内容の一部】

—授業準備—

- ・Shiho's Time に向けた準備

※Shiho は ME の名前

授業内で 10 分間、ME が異文化や言葉に関する興味深い事柄等を紹介し、児童の英語に対する興味関心を高めたり、英語力を伸ばしたりすることを目的として実施。児童が内容を想像したり理解したりしやすいように、写真やイラストを載せたスライドを作成。配置後半は、ME が作成したスライドの内容を指導主事と検討し、教科書を基にした児童同士のやり取りにつながるように、プレゼンテーションの内容や表現を工夫した。

—授業内で実施したこと—

- ・Shiho's Time の実施

授業内で ME が異文化や言葉のおもしろさを紹介。児童は、ME の話を基にやり取りする言語活動を行った。異文化について知ったりする機会とした。

- ・個々への支援

児童が友達や ALT の先生に伝えたい内容を整理している間、表現したいけれど英語にできないこと等について児童の相談にのり、過去の学習カードや教科書を活用するようアドバイスを行った。



—授業後の打合せ・学習カードの確認—

- ・打合せ

学級担任と授業の振り返りを行ったり、ME には把握しづらい学校生活等の児童の様子を教えてもらったりした。新しい単元に入る前に単元の目標と学習内容を学級担任と確認した。

- ・学習カードの確認

児童が学習カードに英語で記述を行った際は点検した。十分に慣れ親しんだ語を書き写すことができるということを踏まえ、単語の頭文字が合っていれば、丸を付けるようにしました。児童が徐々に自分が話した英語を書くことができるようになってきた姿が見られた。学習カードには、応援のコメントを記入し、児童に書く楽しさと達成感を感じてもらうよう心掛けた。



児童の変容



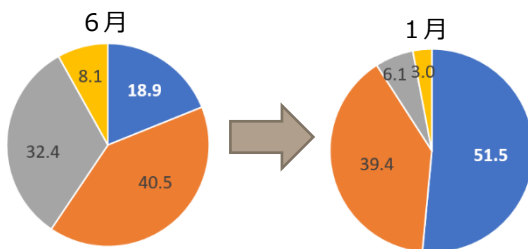
【英語学習への意欲とスキル向上】 教師の見取り、アンケート結果から

- ・ME との授業を通じて、児童の英語学習への意欲が高まりました。特に、英語でのやり取りやスピーチに対する自信がつき、積極的に英語を使おうとする姿勢が見られました。
- ・学習カードを活用して書き取りを行うことで、児童は自分の学びを振り返り、達成感を感じることができました。ME のコメントが励みとなり、児童の学習意欲がさらに高まりました。
- ・書き取りや会話練習を通じて、児童は英語のスペルや発音に対する理解が深まりました。また、異文化や言葉のおもしろさを学ぶことで、英語に対する興味がさらに増しました。
- ・ME とのやり取りを通じて、児童は自分の考えや気持ちを英語で表現する力を身に付けました。特に、Shiho's Time での活動を通じて、児童は自分の意見を英語で述べる機会が増えました。

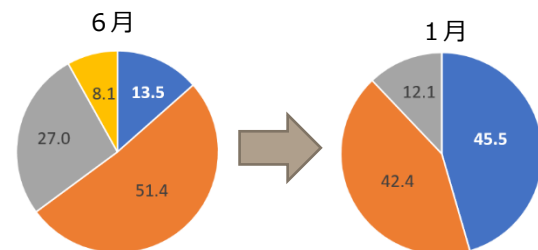
アンケート結果の一部

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない (%)

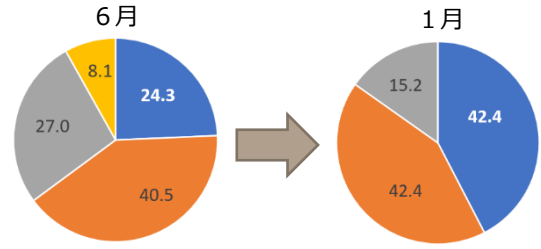
・初めて会う人や知り合いとあいさつを交わすことができる。(例：自己紹介の場面)



・学習者用デジタル教科書を活用することで、分からないことがあったときに、すぐ調べることができる。



・自分のことについて、伝えようとする内容をメモなどに整理して話すことができる。



※ 6月は 37 名の児童からの回答、1月は 33 名の児童からの回答

多くの質問項目で数値が向上。デジタル教科書の活用頻度が上がったことに伴い、個々の必要感に合わせた活用が、一人ひとりの「できる」につながったと考えられる。

【英語指導への自信とスキル向上】 教師の振り返り、指導主事の見取りから

- ・ME とのチーム・ティーチングを通じて、学級担任は英語指導に対する自信をもつようになりました。特に、英語によるコミュニケーション能力が向上し、授業の質が向上しました。
- ・学級担任は ME との打合わせを通じて、授業計画や教材に工夫を凝らすようになりました。これにより、児童にとってより効果的な授業が実現しました。
- ・ME と協力することにより、学級担任は新しい指導方法や教材を取り入れる機会が増えました。これにより、授業の進行や児童への指導がより多様化し、効果的な学習支援が可能になりました。
- ・ME との共同作業を通じて、学級担任は児童との関係性を深めることができました。児童の学習意欲やスキル向上をサポートすることで、教師自身も成長を感じることができました。

教師の変容



今後に向けて

令和6年度の「小学校外国語外部人材活用事業」は、児童の英語力向上と学級担任の授業力向上を目指して実施しました。外部人材（ME）の活用により、児童の英語によるコミュニケーション能力が飛躍的に向上し、学級担任も英語指導に自信をもつようになり、次のような外部人材活用のメリットが明らかになってきました。

メリット 1: 専門知識と経験の提供

特定の分野における専門知識や実務経験をもつ外部人材が教室にすることで、児童は本物の英語に触れ、実践的なコミュニケーションを行う時間が増加します。また、異なる文化に触れる等、グローバルな視点も養われます。

メリット 2: 教員のサポートとスキル向上

外部人材が授業に参加することで、学級担任は新しいアプローチや教材のヒントを得る機会が増えます。チーム・ティーチングを通じて、教員は外部人材の指導方法やコミュニケーション技術を取り入れ、自身の授業力を向上させることができます。また、授業準備や進行のサポートを受けることで、負担軽減にもつながります。

メリット 3: 児童の学習意欲と成果の向上

外部人材の参加により、児童は新しい視点や刺激を受け、学習意欲が高まります。外部人材も英語のネイティブスピーカーではないため、表現できない語彙もあります。そのような際に、デジタル教科書を使ってみる、辞書で調べてみる、学習カードを見返してみる等、様々な学び方を示してもらうことが効果的だったと、児童は振り返っています。学級担任や外部人材も、どのように伝えたらよいか分からないときは、児童と一緒に調べてみるようにすると、「みんな、共に学び続けている仲間なんだ！」と児童が実感でき、児童の安心感につながります。

メリット 4: 学級担任の困り感やニーズに対応

外部人材を配置する際には、学級担任の困り感やニーズを的確に捉え、柔軟に対応することが重要です。これにより、学級担任は安心して授業を進めることができ、児童にとってより良い学習環境が整います。

終わりに

本報告書で示したように、外部人材の活用は、児童の学習意欲を高め、英語力を向上させる効果的な手段となりました。また、学級担任の授業力向上にも寄与し、教員自身が新しいアプローチや教材を学び、授業の進行に自信をもつようになりました。

外部人材を活用することで、地域社会との連携も強化されます。地域住民やボランティアが学校に関わることで、地域全体で児童の学びを支えることができます。地域の方々が国際的なつながりを持ち、児童が英語を使った職業に対する意識を高めたり、英語をより身近に感じたりするきっかけとなります。

児童にとっては、「もっと表現してみたい、できるようになりたい」という意欲が生まれ、外部人材とのやり取り等を通じて世界を広げたり深めたりすることができました。学級担任は、児童と共に学びながら、外部人材の強みを最大限に活用し、授業を改善していくことができました。

児童の資質・能力の育成に向け、学級担任と外部人材（ME）は、それぞれの役割を試行しながら明確にしました。当初は外部人材の活用がスムーズに進まない場面もありましたが、授業後の打合わせを重ねることで、学級担任ごとの英語教育に対する考えや具体的な指導のニーズを共有し、より効果的な授業づくりにつなげることができました。最も重要なのは、「児童の資質・能力の育成」という目標を常に見失わないことです。

本事業の取組を生かし、今後も児童の英語力向上と学級担任の授業力向上を目指して、外部人材の活用の在り方について検討していきます。